

知識・技能を生かし、自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成 ～ 表現意欲を喚起し、表現のよさを認め広げる学習過程の工夫 ～

新潟市立南万代小学校

1 NIE 実践のねらい

本校では、NIE を研究の柱の一つとして位置付け、研究主題である「知識・技能を生かし、自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成」の具現を目指して実践を進めてきた。新聞を、社会の出来事や多様な考えに触れながら自分の考えを形成し表現するための有効な学習の手段として捉えている。

本校のNIE 実践では、新聞を活用した学びを通して育成したい力を整理し、「子どもの成長」「教師の成長」「地域とのつながりの成長」の三つを目指す姿として設定し、実践を行った。

南万代小学校 NIE 実践で目指す 3 つの成長

子どもの成長	教師の成長	地域とのつながりの成長
新聞を読むことが好きになり、文章を読み取る力、必要感をもって情報を収集したり話し合ったりする力、工夫して発信する力などのコミュニケーション力が高まる。	新聞の特性や新聞を活用した学習への理解を深め、子どものコミュニケーション力を高める授業設計力や授業実践力、学校全体の言語環境をデザインする力が高まる。	新聞を活用した学習を通して、地域の歴史や成り立ちを知り、地域の人と信頼関係を深め、協力して安心・安全で豊かなくらしを目指す等の地域とつながる力が高まる。

これらの目標を達成するために本校では、「授業における新聞活用の取組」と「日常的に新聞に親しむ取組」の二つの側面からNIE 実践を進めてきた。授業では、新聞を学習の手段として各教科や単元に位置付け、活用場面を検討しながら実践を積み重ねてきた。また、授業以外の場面においても、各学年の実態に応じて新聞に触れる機会を設定し、新聞を身近なものとして捉える態度を育ててきた。なお、タブレット端末の活用は、これら二つの取組を支える共通の手立てとして位置付けている。

2 本年度の実践の概要

本年度は、本校のNIE 実践を、①新聞を活用した授業づくり、②タブレット端末を活用した取組、③新聞に親しむ日常的な活動の三つの側面から整理し、学校全体で進めてきた。以下では、それぞれの取組の内容について述べる。

(1) 新聞を活用した授業づくり

授業づくりにおいては、新聞の3つの機能を新聞活用の枠組みとして位置付け、どの機能をどの教科や単元で生かすかを学年部や研究推進部で検討しながら単元構想を行った。新聞の3つの機能は以下の通りである。

【新聞機能学習】新聞をメディアとして捉え、記事の構成や見出し、伝え方の工夫などに着目した学習を行う。

【新聞活用学習】新聞記事を教材や資料として活用し、多様な考えや立場に触れながら思考を深める活動を取り入れる。

【新聞制作学習】学習のまとめとして新聞を作成し、発信や交流の場を設定する。

※参考 NIE はじめの一步 理論編 (関口修司・日本新聞協会 NIE コーディネーター)

(2) タブレット端末を活用した取組

新聞活用をより効果的に進めるため、タブレット端末を活用した環境整備を行った。「新潟日報ふむふむスタディー」(略称「ふむスタ」)や「ロイロノート」を活用し、記事の検索や新聞制作感想や意見の記録を行った。

低学年では、検索した記事を教師が読み聞かせる活動を行った。中学年以上では、記事の検索や編集、新聞制作に主体的に取り組む学習を進めた。また、定期的な職員研修を実施し各学年の実践を共有することで、活用方法への理解を深め、学校全体での取組の広がりを図った。



「ふむスタ」で記事検索



職員研修で活用方法を共有

(3) 新聞に親しむ日常的な活動

各学年の実態に応じた NIE タイムを朝学習の時間等を活用して取り組んだ。また、授業以外の場面でも新聞に触れる機会を確保するため、NIE 掲示板の設置、子ども新聞の配置、図書室の新聞スペースの整備、委員会活動との連携などを行った。新聞を身近なものとして捉え、継続的に親しむことができる環境づくりを進めてきた。



低学年 新聞文字さがし



中学年 新聞記事まとめ



高学年 新聞記事スピーチ

(田村 眸)

3 実践例

(1) 実践1

第4学年2組 体育科(保健領域)【新聞活用学習】

単元名「体の成長とわたし ～がんばれ！自分応援プロジェクト～」

① 単元で目指す子どもの姿

体や心の発育・発達を理解し、自己の体や心の成長に意識を向け、自己の課題を解決する活動を通して、これまでの成長の過程や経験を想起したり、将来の自分を想像したりしながら、誰にでも起こる思春期の心の変化を自分ごととして捉え、どのように乗り越えていくのかを考えて表出・表現し、大人になることに希望をもつことができる。

② 本時のねらい

思春期の心の変化について、思春期の心の変化やそれに伴う悩みなどを、どうやって乗り越えたかについて書かれている新聞の投書記事を読み取る活動を通して、心の変化が起きた時にどのようにしたら良いかを考え、文章として表出し、他者へ表現することができる。

③ 授業の実際

「思春期の心の変化で悩んだ時には、どうすればよいか。」を学習課題に設定した。思春期の心の変化に伴う悩みや不安などを、どのように乗り越えたか書かれている新聞の投書記事を全体で読み取る活動を通して、心の変化で悩んだ時の解決方法を考えさせた。また、心の変化で悩んだ時の様々な解決方法を個々に考えさせる活動では、8つの新聞記事と教職員の体験談の資料から、自分が気になる資料を選択して参考にするようにした。悩みや不安の解決方法には様々な方法があること、そして、自分がいいと思う方法を探して試してみると良いことを学習のまとめとした。

成果①思春期の心の変化を「自分ごと」として捉えさせることができた

学習前に子どもに行った事前調査の結果を活用し、思春期の心の変化は自分だけでなく、周りの友達も起きていることに気付かせたことで、安心感をもって学習に取り組めた。新聞記事の投書記事から、不安や悩みがある時にどのような気持ちになり、どんな方法で乗り越えたのかを読み取ることで、「自分は気付かなかったけれど、実は解決する方法がある」と、知ることができた。そして、自分もこれまでに同じような経験があることやこれから不安や悩みが起こるかもしれないと想起させ、より自分事として捉えさせることができた。

家族の「大丈夫」で元気に
新潟市江南区 渡藤 七海(15) 高校生
「私の大切なものってなんだろっ?。学校で自分の大切なものを書く機会がありました。その中、部活でつらかったとき、悩みごとがあつて誰かに相談したくなつたとき、いつでも私をそばで家族が話をきいて、寄り添って、私を前を向いて歩く手助けをしてくれました。この四月、希望していた高校に入ることができました。受験生を経験し、たくさん勉強してきました。簡単ではなく、頑張る家族です。」
てテストの点数が下がらない時期もあつて、すごく落ち込んだときがありました。でも家族と「マイナスの言葉を使わずに励ましてくれました。その言葉が家族が言ってくれたから、今は少し反発期で、昔より素直になれないし、冷たく接してしまうことも多いです。今すぐそれをスパッとやめることはできないけれど、いつか一歩ずつ、私も元気でいられたらいいです。私が一番大切なものは家族です。」

新潟日報 窓 きらきらキラリ 2025年7月25日

成果②悩みや不安の乗り越え方について自分の考えを表出することができた

本単元では、これまで学級の「NIEタイム」で一度は読んだことのある新聞記事を扱った。そのため、子どもは新聞の読み取りに抵抗なく取り組むことができた。本時で提

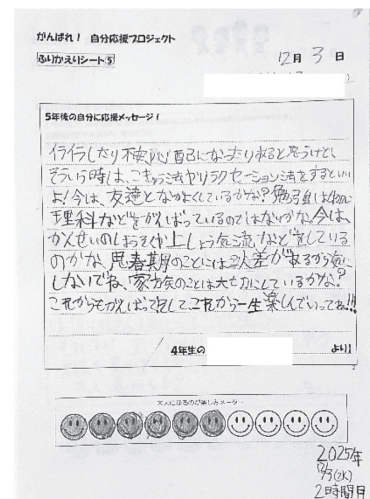
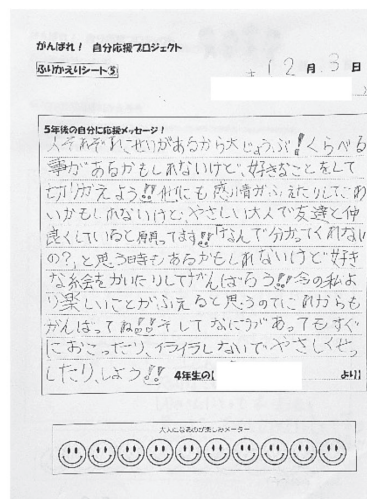
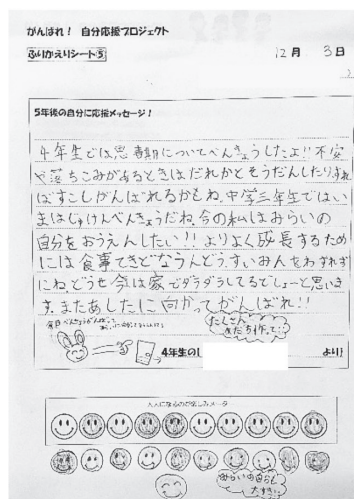
示した新聞記事や資料は、悩みをもつことは自然なことであるという感情面に焦点を当てたもの、生活習慣や行動で悩みを解決することができることを示したものの、著名人や身近な大人（教職員）の経験談などである。子どもにも新聞記事や資料を自己選択させて読むようにしたことで、思春期の心の変化に伴う悩みや不安を解決させる方法を自分から探しに行き、自分で見付けた感覚をもたせることができた。また、様々な新聞記事や資料を読んで参考にしたことで、自分なりの学習課題に対する考えを文章で表し、他者へ伝えることができた。



気になる新聞記事や資料を選んでいる様子

また、単元の最後に、思春期を迎えているであろう5年後の自分に応援メッセージを書く学習活動を行った。子どもは、それまでの学習内容を振り返りながら、将来の自分へ思春期の心の変化で悩むことは自然なことであることや、誰かに相談したり自分の好きなことでリフレッシュしたりすると良いというアドバイスを書き表した。さらに、大人になることが楽しみな気持ちを書く子どもも見られ、一人一人が学習を生かして自分の考えを文章で表すことができた。

④ 本時後のふりかえり（5年後の自分へ応援メッセージ）



- ・不安や落ち込みがある時は誰かに相談すれば頑張れるかもね。今の私は、未来の自分を応援したい！より良く成長するためには、食事、適度な運動、睡眠を忘れずにね。明日に向かって頑張れ！未来の自分も大好き！
- ・人それぞれ個性があるから大丈夫！人と比べることがあるかもしれないけど、好きなことをして切り替えよう！今の私より楽しいことが増えると思うので、これからも頑張ってね！
- ・イライラしたり不安になったりすることがあると思うけど、そういう時は呼吸法やリラクゼーション法をするといいよ！家族のことを大切にしているかな？これから一生楽しんでいってね！

(駒沢 里衣子)

(2) 実践2

第5学年1組（総合的な学習の時間）【新聞活用学習】

単元名「私たちも主役！あたらしい新潟づくり」

① 単元で目指す子どもの姿

新潟のよさをマルシェで表現し、広めていく活動を通して、地域の将来に思いを馳せ、地域との関わり方について考えることができる。

② 本時のねらい

開催したマルシェについて話し合う場面で、イベントや地域活性について書かれた記事を読み取り、マルシェの様子や販売した商品に関連付ける活動を通して、マルシェをよりよくする工夫を考えることができる。

③ 授業の実際

「さらに新潟のよさ・魅力を広めるにはどんな工夫ができるかな」を学習課題に設定した。新潟県内で行われた過去のマルシェ記事2つから、さらによさ・魅力を広めるために参考にできることを読み取る活動を通して、よりよいマルシェの姿を考えさせた。子どもたちは、記事内の「遊びを通して」「景品がもらえる」「クイズを解きながら進む」などの様々な言葉に注目し、マルシェ当日の様子が分かる写真に、自分たちにできる工夫を書き加え続けた。記事を読む前に考えた工夫と記事を読んで考えた工夫を結び付けたり、付箋を動かしたりしながら話し合いを進め、会話のなかで工夫が生まれるグループも多くあった。全体で共有し、新聞記事を使う前と後で工夫の考えやすさにどんな違いがあるかを振り返りにまとめた。

成果①新聞記事を活用することで新たな視点に気付かせることができた

前時では、マルシェ当日の写真を見てどんな工夫ができるかについて考えた。この段階では、マルシェでうまくいかなかったこと（レジに行列ができてお客さんを待たせてしまったことや小さい子が遊べる場所がなかったことなど）に注目し、改善点を考えることに留まったグループもあった。一方、本時では新聞記事を読ませることで、ダメだったことを良くする工夫だけではなく、良かったことをさらに良くする工夫を考える必要性に気付き、前時では思いつかなかったようなアイデアが増えた。また、前時に考えた工夫（付箋）と記事を読んで考えた工夫（付箋）を重ねている班もあり、考えていたことと記事に書いてあることが一致していることに気付き、「これは大事だね」と○で囲いながら話し合う姿も見られた。新聞記事が根拠になり、自分たちで考えた工夫が説得力をもつものになった。

ゲームや体験活動を通じた防災知識を身に付けた「防災マルシェ」柏崎市高柳町尾



「防災チャレンジカップ」だった。

子どもたちに遊びを通して、調理器具を使わずに済んで防災知識を学んでもらおうと、柏崎市高柳町高尾のナリが並ぶ。県立子ども自然王国で「防災マルシェ」が開かれた。や消防車の展示や、煙を充てた体験ブースが設けられ、潮さなテントから脱出する体験もあつた。家族連れが楽しめる体験もあつた。防災チャレンジカップを毎年開催しており、3回体験した朝野小4年の遊辺の今年も15日があつた。美咲さん(10)は「遊辺が消防器から水を噴射して炎から防災について学べて良かった。消防ゲームなどの得た。普段できない体験が点に的になった。景品がもらえる。できて楽しかったと笑顔」

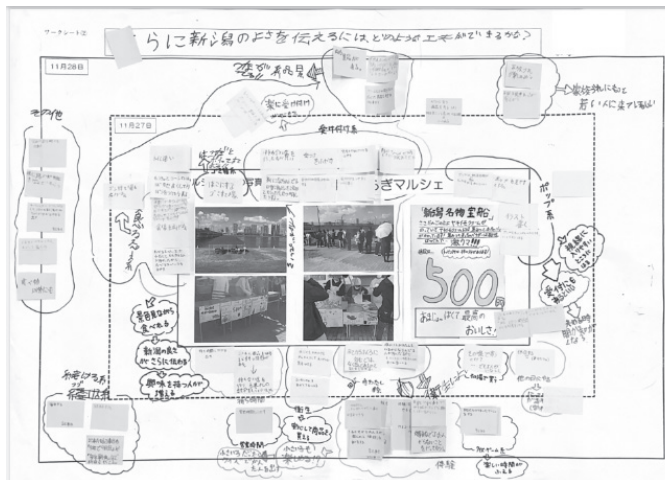
遊びを通して学び充実
防災マルシェにぎわう
柏崎・高柳

災害への備え心に刻む

新潟日報 2025年9月25日

成果②ワークシートの形式を工夫したり、新聞記事の内容を子どもたちが主催したマルシェと異なるテーマにしたりしたことで、関連付けが促された。

本小単元では、過去のマルシェについて書かれた新聞記事を2つ用いた。この2つの記事は、ふむスタ内にある過去5年間の記事（マルシェと検索して表示されたもの）のうち、運営の詳細が書かれていること、子どもたちが主催したマルシェとは異なるテーマ（五泉ニット、防災）であることを条件に選んだ。ワークシートは関連付けが可視化できるように工夫した。



※1 本時後のワークシート

異なるテーマの記事を扱うことで、記事に書かれた言葉一つ一つにこだ

わり、写真や前時に考えた工夫のどこかにつながりがないかと考える姿が見られた。また、「この付箋はここじゃない?」「これ私も同じ」といった自然な会話も生まれ、友達と協力しながら話し合いを行う様子も見られた。ワークシートは、あえて前時と本時を線で分けたことで、矢印などでつながりを表したり、線の上に付箋を置き、両方に関係すること子どもたちなりに表現したりする姿が見られた。

④ 本時後のふりかえり

私が書いた工夫は「こうしたらこうなる!」だけでなく、「こうしたらこうなっちゃう、、、」という一系のことでも書いたことです。+のことだけでなく-のことでも書けば良い悪いがはっきりすると思って工夫しました。そして私が一番良い案だと思ったのは絵本を作って売ることです。内容は例えば災害や新潟の魅力などをわかりやすく伝えることです。こうすると新潟の魅力などが小さい子どもでもわかりやすいと思いました。

私が今日話してここを工夫したりしたらいいなということを考えたことは、記事Bに書いていたように、防災を体験しながら楽しめるということと似ていて、こちらも食べ物などを食べて体験するのではなく、行動的な方で体験するということです。そうしたら、記憶にものこるし、新潟の魅力がわかりやすく伝わると思いました。

今日は班のみんなと新聞を読んでマルシェに生かせそうなことはあるかを探しました。新聞を読んだら思いつかないような工夫が出てきて参考になりました。また、その工夫をやったら新潟の良さを知ってもらえるかと思いました。班のみんなでグループングやラベリングをして楽しかったです。

11/28の振り返り

今日の授業をうけて思った事は、新潟の良さをお客さんに知ってもらえるように工夫しました。例えば新潟のクイズを出してみました。クイズを出すと子供達が楽しく新潟の良さを知ってもらえたり、子供とか若い人だと人口減少を抑えるために、力になるし、色々な人が来てくれると思ったので、クイズを出してみるという工夫を出しました。他に、遊びながら、新潟の良いところを伝えるために体験してもらえる事で、色々な人が興味を持ってくれると思うし、体験するとより新潟の良さを知ってもらえると思うので、こういう案を出しました。ときの体験をしてもらいたいです。

(石田 力都)

4 成果

本校では、新聞を活用した授業づくり、タブレット端末を活用した取組、新聞に親しむ日常的な活動を継続して行ってきた。

(1) 新聞を活用した授業づくり

新聞を活用した授業づくりのそれぞれの成果は以下の通りである。

- ① 新聞機能学習…新聞記事の構成や見出し、表現方法に着目した学習を通して、伝えたい内容を焦点化し、的確に表現しようとする力が育成された。子どもは、記事の書き方や伝え方の工夫に気付き、それらを自分の表現に生かそうとする姿を見せるようになった。



- ② 新聞活用学習…新聞記事を資料として活用することで、多様な考えや立場に触れ、これまでとは異なる視点から自分の考えを捉え直す力が育まれた。事実と考えを区別しながら情報を読み取り、比較や関連付けを通して思考を深める姿が多く見られるようになった。



- ③ 新聞制作学習…学習のまとめとして新聞を作成し、発信や交流の場を設定することで、自分たちの学びを価値付け、相手を意識して表現する力が高まった。友達と記事内容を共有し合い、見出しや表現を推敲する活動を通して互いの考えを尊重しながら学びを深める様子も見られた。



これら3つの機能を教科や学習場面に応じて組み合わせることで、子どもの「自分の考えや思いを表現する力」を高めることができた。特に、生活科や総合的な学習の時間、体育科（保健領域）などにおいて、「地域と自分」「これまでの自分とこれからの自分」といったテーマで自分を見つめ直す活動を行った際、新聞は社会の多様な見方や新たな視点を与える教材として高い親和性を示した。子どもは、記事を通して他者の考えや社会の動きを知り、自分の考えを整理し、表現する力を育むことができた。

(2) タブレット端末を活用した取組

タブレット端末を活用することで、新聞記事の検索や資料の収集、編集、発信を主体的に行う姿が多く見られた。情報を手軽に扱える環境が整ったことで、子どもは必要に応じて新聞を学習や生活に結び付けて活用するようになり、思考力や表現力の基盤となる情報活用能力の向上にもつながった。一方で、学年による活用の差や子どもの操作スキルの個人差といった課題も明らかになった。特に低学年では、教師の支援を要する場面が多く、子どもが自ら記事を選び、考えをまとめていくための支援の在り方を引き続き検討していく必要がある。



(3) 新聞に親しむ日常的な活動

低学年では、新聞文字遊びを通して新聞に親しんだ。中学年では、記事を読んで分かったことについてロイロノートやワークシートに考えを書く活動を行った。高学年では、記事を読んで感じたことを朝のスピーチや新聞制作を通して表現する活動に取り組んだ。日常的に新聞に触れる機会を継続的にもつことで、新聞を身近なものとして捉え、親しむ態度が育まれた。



以上のように、本校のNIE実践は、新聞の3つの機能を生かした授業づくりとタブレット端末の活用、新聞に親しむ日常的な活動などの継続的な取組を通して、子どもの思考力や表現力の育成に努めてきた。今後も、発達段階に応じた支援の工夫と実践の共有を進めながら、学校全体でNIEの取組を継続的に推進していきたい。



(田村 眸)

担当 NIE アドバイザー及び担当新聞通信社からの一言

1 担当 NIE アドバイザー

新潟市立大鷲小学校 教頭 牛脇 昌克



2年間にわたる実践は、「知識・技能を生かし、自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成」という主題の下、確かな知見を積み上げてきました。国語科における「書くこと」の系統的な指導を基盤に、全教科で新聞を「触媒」として活用したアプローチは本研究の特色であると考えます。

4年保健の授業では、新聞記事が思春期の「心の揺らぎ」を客観視させる安心感のある媒介となり、他者の経験を鏡に自己を深く見つめ、自らの言葉で振り返る姿が見られました。新聞制作や掲示を通じた「校内に循環する学び」は、児童のコミュニケーション力向上のみならず、教師の言語環境をデザインする力の高まりにも寄与しています。新聞を窓口に、社会に関心をもち自ら表現する「主権者」としての資質が着実に育まれていることを見ることができました。

2 担当新聞・通信社

産経新聞社新潟支局長 本田 賢一



新潟市立南万代小学校の研究発表を拝見して、レベルの高さに驚かされました。特に5年生の「私たちも主役！あたらしい新潟づくり」は、新潟の食などの魅力を発信するマルシェを児童たちが開催し、その実体験を元にどんな工夫をすればさらに魅力を伝えられるかを児童たちが考えるというものでした。小さいうちに新潟の良さ、魅力を考え、気づきを得ることは人口減少問題に対応する上で大事な要素であり、着眼点の良さを感じました。

時事通信社新潟支局長 柴田 裕之



新潟市立南万代小学校では、新聞を「考えるきっかけ」として巧みに活用していました。5年生の総合学習では、記事で紹介された取り組みに着想を得て、子どもたちが「私ならこうする」と積極的に意見を出し合っていました。4年生の体育科の授業では、記事内の人物と自分を重ねながら、びっしりと感想を書き込んでいた児童の姿が印象に残りました。いずれの授業でも、子どもたちは短い時間に考えを深めており、NIEの効果を再確認できました。